

日常も災害時も 建物や社会とつながる安心を装備

Honda eは開発当初からEVを“移動するバッテリー”として捉え、先進の給電技術を開発してい

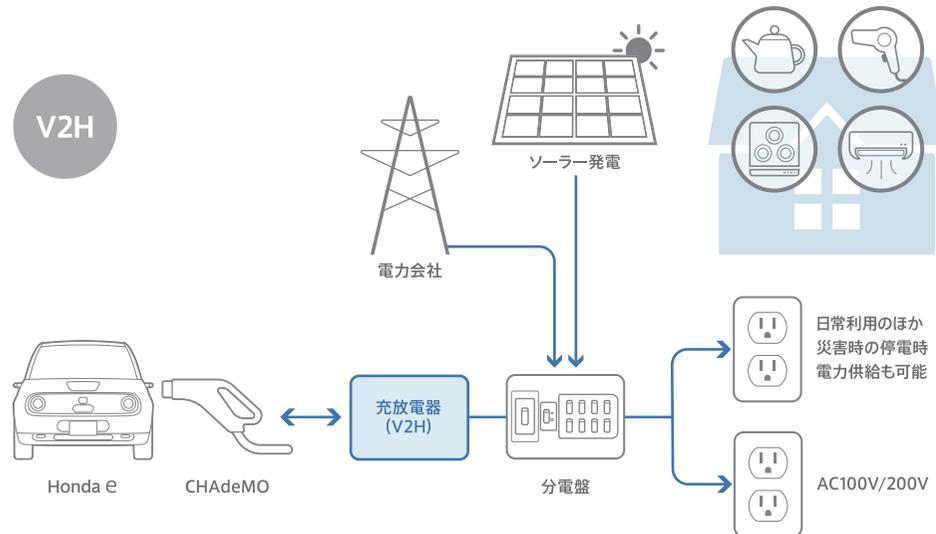
ます。機器などへの給電対応のV2L、建物や家屋を対象としたV2Hに対応。

エネルギーコストの低減や、自然災害時、万の際の安心につながる給電を実現します。

またHondaは、欧州では双方向充電器を通じたEVユーザーと電力サービス事業者間で電気を融通し合う双方向のソリューション事業を開始しました。

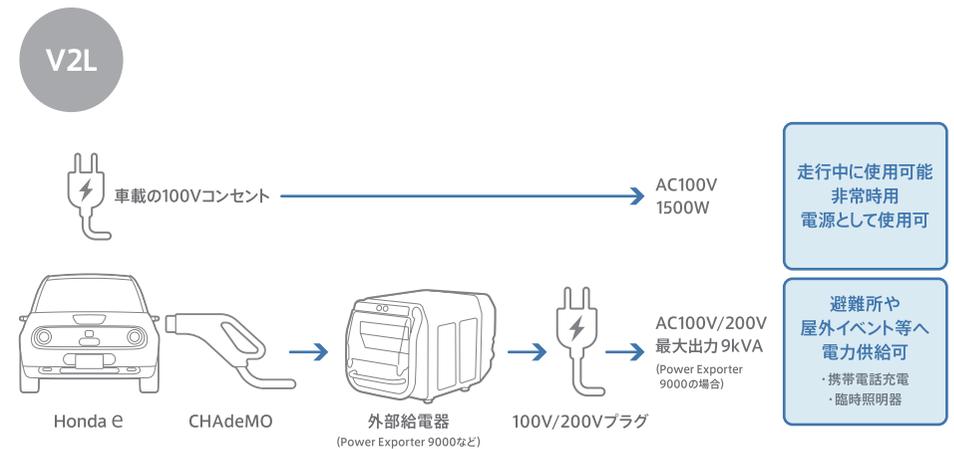
建物/家屋に給電するV2H (Vehicle to Home)に対応 日常の電力節約や災害時の安心を手にするにつながる

Honda eは、EVとして給電機器を通じて建物や家屋とつながって充電・給電を行うV2Hに対応しています。日常の電力節約やCO₂削減に貢献するだけでなく、自然災害の多い日本では万の際の安心につながります。



機器などの電源となるV2L (Vehicle to Load)に対応 いつでもどこでも蓄積した電力を使用可能

Honda eは、シームレスライフクリエイターとして、いつでもどこでもバッテリーの電力を使用できるため、100Vのコンセントを車内に装備。ダイレクトに機器を接続可能にしました。また、外部給電器 (Power Exporter 9000など) を用いれば、人が集まる避難所などで、より多くの電力が利用可能となります。



参考資料

欧州エネルギー 試験事業の取り組み

Hondaはカーボンフリー社会の実現に向けて、エネルギーマネジメントソリューションに取り組んでおり、V2G (Vehicle to Grid) の実証実験を2020年1月より英国・ロンドンで開始しました。ロンドン・イズリントン特別区のタウンホールに、電力系統と双方向で充電・給電が可能な双方向充電器※を複数台設置。公用車 (EV) への充電、EVから建物への給電、さらに電力系統への調整力提供までを含めたエネルギーマネジメントの

技術実証を行っています。最も電力需要が少ない時間帯にEVを充電し、電力需要が高まる時間帯にEVに充電した電力を建物や電力系統へ供給することで、電力需要の平準化と、再生可能エネルギー由来の電力使用拡大をめざしています。

※ HondaとEVTEC (イーブイテック) 社の共同開発品

ロンドン・イズリントン特別区に設置された双方向充電器

